

# 1. 柿田川の生い立ち

## 湧水を水源とする柿田川

柿田川は静岡県清水町のほぼ中心部を南北に流れる、延長1.2kmの狩野川の支川です。この川は、富士山の南東の山麓にあり、富士山周辺で降った雨水や雪どけ水が地面にしみこみ、地下水となって湧き出して出来たものです。(図1-1, 2参照)

富士山全体の地下水の量は、1日当たり約450万m<sup>3</sup>ともいわれています。その約2割にも相当する1日約100万m<sup>3</sup>（およそ25mプール2000杯分）の水が湧き出しているのが柿田川です。

柿田川は、湧水を水源としていることから、かつては泉川、地域は泉郷と呼ばれていました。

The Kakita River, in the center of Shimizu-cho in Shizuoka Prefecture, flows in a southerly direction. A tributary of the Kano River, it is 1.2 km in length.

This river rises at the South East base of Mt. Fuji. It is fed by springs from the underground water table which is maintained by rain, and melting snow from Mt. Fuji.



図1-1 狩野川流域図



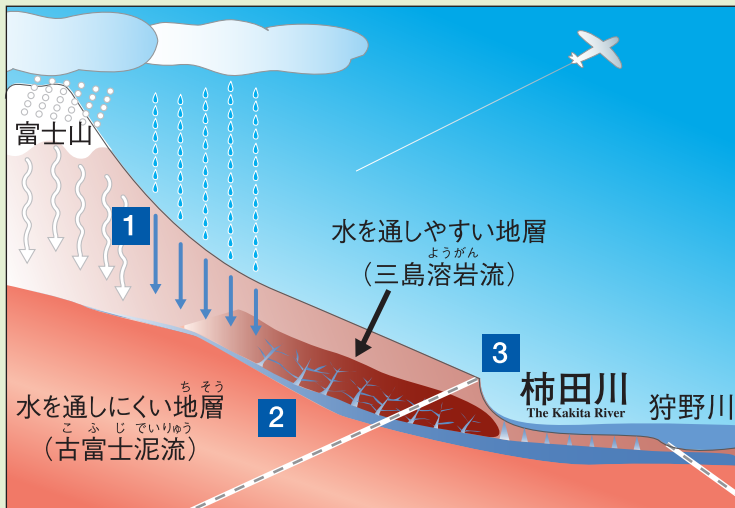
図1-2 柿田川空中写真

富士山の周辺には、同じように水の湧き出るところが何ヶ所かあります。その中で柿田川の水量が最も多く「東洋一の湧水」と呼ばれています。(図1-3参照)

柿田川の湧水は、国道1号に接した崖地の下を中心に数十箇所の湧き出し口（湧き間）があり、そこから狩野川に流れこんでいます。

From the cliffs near National Route 1, there are several dozen springs which supply the one million m<sup>3</sup> of water that flow along the Kakita River and into the Kano River each day.

図1-3 柿田川の湧水のしくみ



- 1 富士山周辺に降った雨や雪どけ水が地下にしみこみます。
- 2 しみこんだ水は、水を通しやすいたくさんの穴のあいた地層（三島溶岩流）と水を通しにくい地層（古富士泥流）の間を流れていきます。
- 3 やがて、三島溶岩流の南端である柿田川公園付近で一気に開放され湧き出しています。

**コラム 三島溶岩流**

富士山は8,500年前に大量の溶岩を噴出する爆発をしました。

このときの溶岩は箱根山と愛鷹山に挟まれた狭い谷間（今の黄瀬川沿い）を流れ三島市や柿田川上流部に達しました。これを三島溶岩流と呼んでいます。

水を通しにくい溶岩流と古富士火山の表層の間を富士山の地下水が流れ、湧き出すところが柿田川です。黄瀬川の名所「鮎壺の滝」では、三島溶岩流の厚い溶岩層を見ることができます。

